

<教育利用> ④ 「こんなときどうする？」 学級にはない視点から

3年 道徳 「かるた遊び」（光村図書）主題：やくそくの大切さ 内容項目：C 規則の尊重



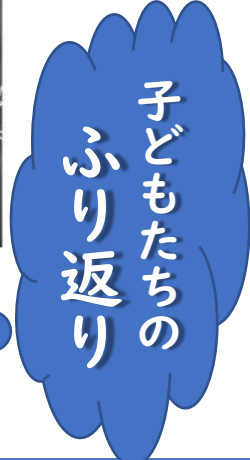
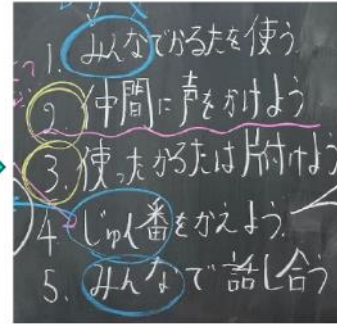
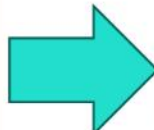
この授業では、約束の大切さについて考える際に、友達の考えに加えて生成AIの回答も踏まえることで、よりよい約束やきまりを考えようとする判断力や心情を育てることをねらいとした。

導入で「困ったときに、ChatGPT（生成AI）に質問しますか？」と聞いたところ、左の写真のような結果だった。今日の授業では、生成AIにも参加してもらうことを伝え授業を開始。教材文の主人公が困っていることについて、以下のようなプロンプトで生成してもらった。最初は難しい言葉が多く使われていたため、「やさしい言葉で」「3年生でも分かるように」等の言葉を追加してプロンプトのブラッシュアップを行い、生成した。

小学校の教室でかるた遊びをする時に、

- ・同じ人ばかりが、かるたを使っている。
- ・「入れて。」と言っても、仲間に入れてくれない。
- ・かるたを使ったのに、片付けをしない人がいる。

という3つの問題が出たときに、それを解決し、できるだけたくさんの人が仲よく遊べるようになるためには、どんな約束を決めればよいですか？



子どもたちの考えを交流した後、生成したものを子どもたちに提示した。子どもたちの中でも出てきたものもあったが、子どもたちが「よく分からない」というものもあった。自分たちの考えと生成AIの回答を比べた後に、導入時の質問をもう一度すると、右の写真のように逆転した結果となった。「あれ？生成AIってあまり役に立たないのかな？」という空気になりつつあったが、「でも、ヒントにはなるよね！」という呟きが聞こえ、それに周りの子たちも賛同していた。生成AIを使うか使わないかではなく、どんな時にどのように使うかが、子どもたちの中に少しずつ育まれた1時間だった。

